

みなみのきかい

2026
(令和8年)
2.1
No. 73

CONTENTS

12月定例会	P 2
一般質問	P 4
つぎやき広場	P 13
議会活動報告	P 14
第44回全国豊かな海づくり大会	P 15



マチイロ



スマホ用アプリ『マチイロ』でもご覧いただけます

重点事業と注目ポイント

12月9日から11日までの日程で、令和7年第4回南伊勢町議会定例会が開催されました。補正予算案6件、条例案17件、その他の議案2件が提案され、すべて原案通り可決されました。一般質問では議員8名が質問を行いました。

また、12月25日には臨時会が開催され、補正予算案1件が提案され、可決されました。

第4回 定例会

議案第73号 令和7年度南伊勢町 一般会計補正予算（第5号）

好 評につき追加します



若者移住定住対策の一環として、空き家の有効活用、並びに町外からの移住を促進するとともに、町外への転出を抑制し、定住促進を図るため、空き家バンク登録物件におけるリフォーム工事に要する経費、並びに住宅取得に要する経費の一部を助成します。

新築及び中古住宅取得補助金
1500万円
空き家バンクリフォーム補助金
550万円

脱 炭素・SDG's



令和9年12月末をもって、蛍光灯の製造が中止となります。それに伴いLED化されていないコミュニティセンター等、指定管理施設の照明LED化事業を行います。

公共施設照明整備工事
317万円

有 効活用を



当初2億円の寄付を見込んでいましたが、当初を上回る寄付が予測されるので、増額補正を行いました。

ふるさと納税寄付金増額
3000万円

第6回 臨時会
議案第99号 令和7年度南伊勢町一般会計補正（第6号）

物 価高騰につき



食料品価格等の物価高騰の影響を受けた生活者及び事業者の負担軽減のため、町内各店舗で利用できる地域振興商品券を発行し、支援します。

地域振興商品券
一人あたり
1万5000円

未 来のために



物価高の影響を軽減するため、児童手当を受給している子どもにも支給します。

子育て応援手当
一人あたり
2万円

あなたの声を町政に!!



一般質問

議員の Question 行政の Answer

一般質問は、町民の声や議員自身の考えをもとに、町の行政・財政の全般にわたり、執行機関に対して疑問点をただし、将来に対する政策方針などを問うものです。

質問議員	質問事項	ページ
上村直美	① 第4次南伊勢町総合計画の成果、課題、および今後の見直しについて	5
山本克彦	① 南海トラフ巨大地震と海外遠地津波、二つの災害リスクに対応する防災体制の強化について	6
掛橋靖	① 行財政改革の実効性と予算編成の優先順位づけに関する考え方について	7
田岡悟	① 全国豊かな海づくり大会の成果とレガシー展開について ② 財政の持続可能性に関する取組について	8
森源久	① 獣害対策に関連する事柄	9
岡本眞	① 全国豊かな海づくり大会について ② 町立病院について ③ 若者定住について	10
倉田育	① 大規模災害について 「御遺体の埋火葬の実施のための基本的指針」の策定や対応策は ② 近年増加する熊被害への新たな対策について	11
岡田和夫	① 高齢者が安心して過ごせる町をどうつくるか ② 南伊勢町の地域防災計画について ③ 精神障がい者にも福祉医療の適用を	12

12月定例会における傍聴者の総数

5名 (内メディア関係者数 3名)

次回定例議会（予定） 議会を傍聴しませんか

3月議会 3月3日～3月23日

傍聴の受付は議会事務局まで。

皆さまの傍聴をお待ちしています。

一般質問の質問事項・内容は、議会広報特別委員会で会議録に基づいて編集、要約しています。詳細は、議会事務局にお問い合わせください。（TEL 0599-66-1781）

うえ むら なお み
上村直美 議員



総合計画の成果は

[町長] 課題も残されている



人口減少・少子高齢化は深刻な課題。こうした中、将来の羅針盤となるのが第4次南伊勢町総合計画である。計画にあたっては、本町を取り巻く5つの大きな課題が明示された。

町民の暮らしや町の存続に関わるこれらの課題に対し、これまでどのように対処し成果をあげ、どのような課題が残されているのか。また今後の見直しについては。



「町長」 第4次南伊勢町総合計画

は、まちづくりの基本的な考え方である本町が進める大切な5つの考えのもと、まちのめざす姿の実現を目指し、取組を進めてきた。重点プロジェクトの推進により、一次産業や福祉・医療、子育て応援やオール南伊勢の実現となる多様な主体の活躍など一定の成果は得られたものの、人口減少・少子高齢化の進行や、新たな社会ニーズへの対応など、次の後期基本計画で取り組むべき重要な課題も残されていると認識している。

5つの柱

1. 「誰もが元気なまち」
2. 「活力のある産業・経済」
3. 「安心安全のまち」
4. 「子育て応援日本一のまち」
5. 「輝きをもてるまち」



訓練の積み重ね

今回の計画においては、進捗状況や役場による自己評価等への意見や提案を受けられる場として今までなかった総合計画・総合戦略推進会議を開催するなど、多くの町民の声を聞かせていただいた。

今後の計画の見直しについては、令和7年6月に後期基本計画策定方針を定め、前期基本計画の中で新たに出来た取組や財政健全化に向けた考え方の反映、また国の新たな動きへの迅速かつ適切な対応な

ど、計画の更新に向けた基本的な方向性を設定したところである。町民の意見を広く取り入れながら、より実効性の高い後期基本計画の策定をしていきたいと考えている。

なお、まちづくりで大切なことは、単に計画を作るだけでなく、それを確実に実行できることだと考える。

※第4次南伊勢町総合計画は令和5年3月に策定。基本計画は前期・後期で各4年間と定められている

やま もと かつ ひこ
山本克彦 議員



遠地津波への対策は

**[町長] 今後の改善を要する
課題も明らかになった**



知識は身を助ける



カムチャツカ半島
沖で発生した地震
により津波警報が発令さ
れ、本町でも防災対応が取
られた。

地域の防災行動計画は見
直しが求められている。津
波避難計画、庁内連携体
制、住民への情報伝達など
変化するリスクに応じた
アップデートが必要と考え
る。遠地津波に対し、本町
が実施した具体的な対応と
総括は。

また、南海トラフ地震臨
時情報への対応体制の整
備、津波避難施設、高台避
難の整備状況と課題認識
は。



「町長」カムチャ
ツカ半島沖を震源
とする地震により発生した
遠地津波に対して、本町に
おいても災害警戒本部を設
置し、防災無線や緊急速報
メール等による情報伝達、
沿岸部パトロール、漁業者
への避難呼びかけなど、平
時の訓練を踏まえた対応を
行った。総括すると、情報
伝達や初動体制については
概ね円滑に機能し、町民の
防災力向上も確認できた
が、猛暑の中での避難とな
り、避難場所や避難所の暑
さ対策や水分補給、健康管
理対策の重要性が改めて認
識された。

また、指定避難所以外の
公共施設に避難された方や
車中避難も多く、人数の把
握が困難であり、情報収集
の難しさや、要配慮者支援
体制、夜間・悪天候時の避
難体、長時間におよぶ避
難など、今後の改善を要す
る課題も明らかとなった。
今後、訓練や計画の見直し
を行い一層充実させてい
く。

南海トラフ地震臨時情報
への対応としても、災害時
に的確な対応が可能となる
よう努めている。



助け合いと備えが重要

各施設および高台避難の
整備状況について。東日本
大震災の教訓から津波一次
避難場所を20mの高さを目
安に、240箇所、整備を
した。また近隣市町や民間
施設と協定を締結すること
で、避難所の確保を進めて
いる。

今後は、今年度の遠地津
波対応で得られた教訓を踏
まえ、避難訓練の充実、情
報伝達手段の多重化、地区
防災組織との連携強化を図
り、南海トラフ巨大地震と
遠地津波、双方のリスクに
的確に対応できる体制づく
りを進めていく。



財政運営の方向性は

〔町長〕 持続可能な財政基盤の構築に努める



令和8年度当初予算にあたり、前年度比20%削減の方針が示された。聞いた。

近年、町民生活を支える行政基盤そのものが揺らぎ始めている。加えて生活インフラは限界に近づいている。一方、財政面では、經常収支比率が2年連続で高止まりし、義務的経費の増加により、政策的経費の自由度が年々低下している。こうした状況下で、削減を打ち出すことは、単なる歳出抑制に留まらず、町政運営の根幹を揺るがす政策判断である。

町長はこの削減方針の背景にある政治判断、今後の町政運営の方向性をどのように描いているのか。



〔町長〕

本町は地域医療や公共交通



など日常生活を支える行政サービスの必要性が高まる一方で、自主財源は限られており、地方交付税や国・県支出金、地方債といった依存財源に頼らざるを得ない状況が続いている。限られた財源を最大限活かすべく、既存事業の見直しや歳入確保策を重視した行財政運営を進めてきている。

令和8年度当初予算に向けて掲げた前年度比20%削減は、単なる一律カットではなく、行政サービス提供にあたり、町としてどのように財政的責任を果たすかを改めて整理し、メリハリのある予算編成を行うための目標設定である。



行政サービスの質は落とさない

国が標準的なサービスを保障し、地方が限界的財政責任を負うという原則のもと、本町としても補助金・交付金・有利な起債の活用、自主財源の確保を組み合わせ、持続可能な財政基盤の構築に努めていく。

私が目指す行財政改革とは、住民福祉と財政規律の両立を図りつつ、地域の実情に応じた最適な行政サービスを確保することである。

町民の安心を守りながら、将来への投資を可能とする財政構造への転換を着実に進めていきたい。

たあか さとる
田岡 悟 議員



海づくり大会のレガシーは

〔町長〕 持続可能な海洋環境の保全



海と共に生きる



本町が漁船パレード、種苗放流の会場として重要な役割を果たした。

町民、漁業関係者、学校関係者、ボランティアが一体となって大会を支え、全国に「海と共に生きるまち南伊勢」を発信することができた。

この成果を一過性のものとせず、町の将来にどう結びつけるのか。



〔町長〕 「海ととも

に生きる町・南伊勢」の実現に向け、海や食、漁業文化の発信強化、

水産業振興と担い手確保、海を活かした教育の充実、持続可能な海洋環境の保全を基本方針として、関係者と連携し取り組んでいく。

今回の海づくり大会で得た財産を教育分野では稚魚放流や水産学級を継続・発展させ、子どもたちに海を学び・守り・生かす力を育む。産業分野では大会で高まった注目を、水産物のブランド化や販路拡大、担い手確保につなげる。観光分野では海の体験型観光など、大会の内容をモデルにした観光資源づくりを進め、環境分野では藻場再生や海岸保全など、持続可能な海づくりの取組を継続し、地域と協働して豊かな海の保全に努める。

財政の持続可能性は

〔町長〕 健全化への取組を一層強化



本町の財源は、今後数年間にわたり毎年の財源不足が見込まれ、基金による補填により財政を均衡させる状況が続く見通しと思われる。

今後の財政運営において、どのように持続可能性を確保し、必要な事業を守りながら財政の健全化を図っていくのか、取組については。



〔町長〕 本町の財政状況について

は、歳入面では自主財源の根幹である町税は、人口減少・生産年齢人口の減少により減少傾向にある。

依存財源の中心である地方交付税は、近年高い水準で推移しているが、今後も地方財政計画の動向を注視していく必要があると考えている。

外部財源の確保については、国・県補助金の積極的な活用、企業版ふるさと納税の拡大、民間資金の活用、広域連携による事業の共同実施など、財源確保策を推進していく。



財源の確保



獣害対策は

[町長] 警察・県・猟友会と連携し 安全で安心できる環境を



獣害による被害に
ついて、テレビ、

新聞等、メディアで、連日、大きく顕著に報道されてきている。農業への被害は、もちろんだが、人間への攻撃による人的、人身被害への獣害対策は、どこの自治体においても、まず、第一に考える必要がある最重要課題である。基本となる獣害対策とは、どのように規定されているのか。

9月1日には、改正鳥獣保護管理法が施行された。また、11月13日より、警察官が人里近くで、クマを銃で駆除できる運用が始まり、迅速な駆除が可能となった。獣害対策に関連する事柄についての課題・問題点、並びに、今後、考えていくべき必要のある事柄は何か。



「町長」 近年の獣

害による被害の深刻化は、農業被害はもちろんのこと、住民の皆様も命・身体に関わる重大な課題であり、当町としても最

重要課題として認識している。

基本となる獣害対策については、「鳥獣保護管理法」・「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律」・三重県被害防止の捕獲許可事務取扱要領に基づいている。

町は、これらの法律等に基づき、獣害対策を進めている。「緊急銃猟制度」の新設により、安全確保等の条件の下で、人の日常生活圏に侵入したクマ・イノシシを市町村長の判断で当該地域から排除することが可能となった。また、国家公安委員会規則の改正により、警察官職務執行法に基づき、警察官がライフル銃を使用したクマの駆除が可能となった。しかし、緊急時に対応できる人材が限られ、銃器規制の煩雑さ、住宅地での銃器使用に伴うリスク等の課題がある。当町は、これらの課題を踏まえ、警察・県・猟友会と日頃から緊密に連携し住民の

皆様が安全で安心できる環境を最優先に、実効性のある獣害対策を継続的に推進していく。



クマは、冬眠する習性を
忘れたのでしょうか、?!



あか もと まこと
岡本 眞 議員



働く場所の確保は

[町長] 環境づくりを進める



「南伊勢体験ワールド」
五感で楽しむ多彩な体験



A 「町長」 美しい自然、地域文化、そしてどこにでも誇れる「食」。これらを活かして地域の皆さまと一緒に、質の高い観光コンテンツを創

Q 若者定住について力を入れて頑張っていると感じているが、定住を促進するには、働く場所の確保が大切な要素となる。
三重県においても、インバウンド事業などに力を入れる施策を打ち出しているが、観光振興に関する所見は。

りだしていききたいと考えている。
豊かな海の幸を活かした漁業体験、地元農産物などの食材や集落ならではの文化の発信、これらの取り組みを包括した観光協会が進めるインバウンド事業について、町も一体となって支援をしている。
伊勢志摩地域における本町の最大の魅力である地域資源を活かし、若い世代が「働く場所は伊勢志摩地域、暮らす場所は南伊勢町」というライフスタイルを選びやすい環境づくりを進めていく。



地域医療を守る



町立病院
ホームページ
QRコード

町立病院が地域医療を守る基盤として存続し続けられるよう、町として全力で取り組んでいく。

この状況を改善するため、10月には知事に対し、11月には県選出国会議員に対し、公立病院の安定運営に必要な地方交付税・補助金の確保や診療報酬の特例的な見直しを強く要望した。

Q 自治体などの運営する病院が、全国的に深刻な経営難にあえている。
当町における現状と課題は。

A 「町長」 全国の公立病院と同様に、人件費や医療材料費が増加する中で診療報酬の伸びが追いつかず、経営環境は年々厳しさを増している状況である。

病院の現状と課題は [町長] 安定運営を強く要望



災害時、御遺体への対応指針は

〔町長〕 具体的な検討を進める



施設設備の充実を

Q 町内には、災害時に被害にあつて命を落とされた方の御遺体を保管できる適切な場所が現状存在しないと考える。災害時における遺体安置・保管、検案、身元確認、搬送、埋火葬までの対応をどのように考えているのか。

また「御遺体の埋火葬の実施のための基本的指針」を策定する考えは。

A 「町長」 本町では、地域防災計画の中で遺体搬送や安置の基本的な手順は定めている。専用の遺体安置施設が存在

しない、また一般的に遺体安置所としての利用が多い体育館等は二次避難所に指定されている。

安置所を定めたとしても災害状況により、施設が被災し、収容ができなくなる恐れがあることから、課題があると認識している。

「御遺体の埋火葬の実施のための基本的指針」については、本町としても安置場所の確保方法、搬送手順、記録管理、遺族対応など災害現場で统一的に運用できる指針の整備が必要であると考える。

現在、国のガイドラインや県の動向を踏まえ、関係団体等と連携して、災害時での御遺体収容マニュアルの策定に向け、具体的な検討を進めていく。引き続き、災害対応の実効性を高める体制整備に努めていきたい。

クマ対策は

〔町長〕 県や関係各所と協力しながら

Q 近年、全国的に市街地でのクマの出没が増加し、人身被害も多数発生している。現在の熊対策の状況は。

また、先進地のように県と連携し、麻酔吹き矢による捕獲が可能となる資格者や担い手の育成の考えは。

A 「町長」 9月1日に改正鳥獣保護管理法が施行され、人の生活圏に出没したクマに対し、市町村長の判断により猟銃を用いた緊急的な捕獲が可能となった。

緊急銃猟の実施は、猟友



クマ注意

会の皆様への負担や危険性が依然として大きく、実施条件も厳格であるため、必ずしも迅速な対応に結びつけない場合もある。

さらに、住居や学校等の施設内に侵入した事案では、猟銃による対応が困難なため、麻酔薬を用いた吹き矢による捕獲事例の報道もある。現在のクマ対策では、県や警察、猟友会と連携しながら、出没情報の共有、注意喚起、町実施隊によるパトロールの実施、捕獲檻の設置、クマ出没時の対応訓練等、被害防止に向けた取組を進めている。また、先進地自治体の事例等を参考に、県や関係各所と協力しながら、麻酔吹き矢による捕獲が可能となる有資格者の育成や担い手確保のあり方について調査・検討していく。

おか た かず お
岡田和夫 議員



飲料水は

[町長] 水道災害 広域応援協定 等により



大規模 給水タンク

Q 大規模な2次避難所の飲料水はどのよう

かに確保する予定なのか。

A 「町長」 町は、毎年

保存水を購入し、各地区と2次避難所に分散して備蓄。多くの地区では、賞味期限が切れた後も保存水を生活用水として

引き続き備蓄している。

さらに、個人や三重県による備蓄、また、宿浦・阿曾浦・道方の配水池への緊急遮断弁の設置、三重県及び各市町との「三重県水道災害広域応援協定」の締結等、多くの方法で災害時における飲料水の確保に努めている。

高齢者の仕事は

[町長] 人材センターでも相談できます

Q 一人暮らしの高齢者が

増える中で、高齢者が安心して暮らせる町にするための対策は。また、高齢者ができる仕事を増やすことが町の活性化につながると思うが、町営の軽費老人ホームを作る考えは。

A 「町長」 社会福祉協議会では、60

歳以上の健康で働く意欲のある方に仕事を紹介するシニア人材センターを運営している。役場の地域包括支援センターや観光商工課の就職相談窓口では、高齢者の方の仕事についての相談にも対応して、今後これらの取組を継続していく。

町営の軽費老人ホームを作ることは、三重県では、一定の整備率が確保されているため、軽費老人ホームの新規整備を行わないこととしており、町が新たな施設サービスの整備を行うこと、運営を行っていくことは考えていない。



社会福祉大会 開催



つばやき広場



冬の海

冬の朝、波の音を聞きながら、11月の全国豊かな海づくり大会を思い出します。漁村の日常の中で、海を守る気持ちをつないでいきたいですな。

(70代男性)



豊かな海づくり大会 無事終わってよかった

海上歓迎パレードに船を出されていた方もお疲れさまでした。

サザエもとこぶしも今後また、たくさん取れるようになるといいなあ～

(70代女性)



おいしい～

先日、大阪から大学時代の友達が、はじめて遊びにきました。SUN! 3! サンデー! で買い物をして行き、後日、電話でカマスの干物を、また買いに行きたいと言っていました。

(40代女性)



雨で、少し残念でしたが、

昨年11月9日(日)に「全国豊かな海づくり大会」が私たちの町で開催され、天皇皇后両陛下が、御参加されました。

そこで、南伊勢町において、誇らしい、素敵な町の記念日として、制定することはできないのでしょうか?

(60代女性)



議会への期待

議会が、私たちの声に耳を傾けてくれていると感じると、もっと町のことを考えるきっかけになると思う。そんな場が増えることを願っています。

(60代女性)



手続きは

忙しい毎日の中で、行政の手続きや情報は、できるだけ簡単でわかりやすいとありがたいです。

暮らし目線の工夫に期待しています。

(30代女性)

あなたもつばやきませんか?

どんなことでも大丈夫です(^ ^)/ みんなでつばやきましよう。

〒516-0194 南伊勢町五ヶ所浦3057 議会事務局 宛 FAX 0599-66-2164

※応募者多数の場合は、掲載できないことがあります。

令和6年度決算 予算決算特別委員会

令和6年度南伊勢町決算について、今年度から新たに設置された予算決算特別委員会において、10月21日から28日までの5日間、9月定例会で付託された議案の審査を行いました。

委員会では、単に決算額を確認するだけでなく、事業の内容や効果、将来の財政運営への影響といった点



に重点を置き、各担当課から説明を受けながら質疑を行いました。

特に、限られた財源をどのように使い、町民サービスや将来世代につなげていくのかという視点で審議を進めました。議会として、今後も町の財政運営を注視していきます。

度会郡町議会連絡協議会研修会



令和7年10月8日、度会郡町議会連絡協議会の研修会が、度会町役場で開催されました。

研修会では、度会町出身で京都大学教授の若宮淳志氏による講演が行われ、今後の実用化が期待される次世代太陽電池「ペロブスカイト」について学びました。

また、視察研修として「宮リバー度会ソーラーパーク発電所」を訪れ、脱炭素社会の実現に向けた取組について説明を受けました。

今回の研修を通じ、再生可能エネルギーや環境施策に関する理解を深め、今後の議会活動に生かしていきたいと考えています。



宮リバー度会ソーラーパーク発電所

ペロブスカイトとは、特定の「ペロブスカイト構造」という結晶構造を持つ物質（鉱物やその構造を利用した材料）のことで、特に次世代太陽電池（ペロブスカイト太陽電池）の材料として注目されており、薄くて軽く、曲げられる、安価に作れる、弱い光でも発電できるなどの特徴から、窓や壁、ウェアなど多様な場所への応用が期待されています。

第44回 全国豊かな海づくり大会 ～美し国みえ大会～ の思い出

式典会場



(本大会写真提供：三重県)



宿田曾漁港
海上歓迎・放流行事



関連行事
ゆた海フェスタ in
南伊勢町奈屋浦漁港



第44回 全国豊かな海づくり大会に寄せて

11月に開催された第44回全国豊かな海づくり大会は、本町にとって、海の大切さや恵みを改めて見つめ直す機会となりました。大会は一つの節目ではありますが、ここで示された思いやつながりを、これからの日常の中でどう生かしていくのかが問われています。議会としても、町民の皆さまとともに、南伊勢町の海を次の世代へ引き継ぐ道を考えていきます。

※表紙の写真は、第44回全国豊かな海づくり大会 海上歓迎・放流行事1ヶ月前リハーサルの様子です。



(本大会写真提供：三重県)

委員 長	副委員 長	委員	議会広報特別委員会
田 森	倉 森	上 山	
岡 岡	本 田	村 本	
源 悟	克 育	直 彦	
		美 彦	

議長 東 伊久雄

南伊勢町議会議員選挙

投票日 令和8年4月19日(日)

投票時間 午前7時から午後6時まで

立候補予定者説明会	と き 令和8年2月24日(火) 午後2時から
	と ころ 役場南勢庁舎3階会議室
事前審査	と き 令和8年4月8日(水) 午前9時から
	と ころ 役場南勢庁舎3階会議室

問い合わせ先 南伊勢町選挙管理委員会 ☎0599-66-1111

編集後記

冬の澄んだ空気の中、海や山に目を向けると、季節の変わり目を感じます。町民の皆さまには、日頃より議会活動へのご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今号をもって、現在の議員による任期が一区切りとなります。任期中、町民の皆さまから寄せられた声や日々の暮らしの中での気づきは、議会広報を進める上で大きな支えとなりました。

次号からは、新しい委員構成のもとでスタートします。これまで積み重ねてきた議論や経験を大切に引き継ぎながら、より身近で、わかりやすい議会となることが期待されます。

議会だよりが、これからも町民の皆さまと議会をつなぐ、窓口であり続けるよう努めてまいります。

(田岡)

議会だよりについてのお問い合わせや、議会に関するご意見、ご要望がございましたら、議会事務局まで、ご連絡下さい。

☎ 0599 (66) 1781

FAX 0599 (66) 2164